

免許状教科	中学校 1 種 (社会)		
科目名	道徳教育の理論と 方法	科目分類	教職科目
			経済学科 <input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
			学科 <input type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択
英文表記	Moral Education Theory and Teaching Methods	開講年次	<input type="checkbox"/> 1 年 <input checked="" type="checkbox"/> 2 年 <input type="checkbox"/> 3 年 <input type="checkbox"/> 4 年
		開講期間	<input type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期 <input type="checkbox"/> 通年 <input checked="" type="checkbox"/> 集中
ふりがな	いしくろ まゆこ	修得単位	2 単位
担当者名	石黒 真愁子	実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 対面のみ <input type="checkbox"/> 遠隔のみ <input type="checkbox"/> 対面・遠隔併用
授業のテーマ	児童生徒に豊かな道徳性を育む道徳教育		
到達目標	<p>(1) 道徳の理論</p> <p>①道徳の本質を理解し説明することができる。</p> <p>②道徳教育の歴史や「特別の教科 道徳」の方向性、今日的課題を理解することができる。</p> <p>③道徳教育の改訂の歩みを理解し、課題意識をもつことができる。</p> <p>④子どもの心の成長と道徳性の発達について理解している。</p> <p>⑤学習指導要領に示された道徳教育及び道徳科の目標や内容を理解している。</p> <p>⑥家庭や地域社会と連携した道徳教育の必要性を把握することができる。</p> <p>(2) 道徳の指導法</p> <p>①学校における教育活動全体を通して行われる道徳教育の全体計画や道徳の時間の指導計画の必要性を理解し、作成することができる。</p> <p>②道徳科の特質を生かした多様な指導方法の特徴を理解し活用することができる。</p> <p>③道徳科における教材の特徴を踏まえて、授業設計に活用することができる。</p> <p>④学校や学年段階、実態を踏まえ、明確な授業のねらいを設定するとともに、指導過程を工夫し指導案を作成し、教材・教具を開発することができる。</p> <p>⑥模擬授業を通して授業改善の視点を身に付けている。</p> <p>⑦道徳科の特性を踏まえた学習評価の在り方を理解し、評価することができる</p>		
授業概要	<p>本講義では道徳教育の歴史や道徳性の発達論などの理論とともに、道徳教育やその要となる道徳科に対する深い理解をもとに、様々な切り口から演習を中心としたアクティブ・ラーニングを展開することを通して、具体的な指導技術や教科理解を身に付け、学生たちが教育現場で通用する実践的な授業力を養うことを目的としている。</p> <p>具体的には中学校学習指導要領解説の「第 I 章 総則」および「道徳編」に示された道徳教育の目標、内容、指導計画の作成、授業構想等についての基礎的な理解をもとに、教材研究を進め、指導案作成や模擬授業等を通して実践へと結び付け児童生徒の豊かな道徳性を育成する力を身に付けることを目指している。</p>		
授業計画			
第 1 回	○ガイダンス○道徳教育とは何か○道徳科における主体的・対話的で深い学び		
第 2 回	○道徳性とは何か○道徳性の発達理論		
第 3 回	○日本における道徳教育の歴史		
第 4 回	○諸外国の道徳○道徳教育の変遷と改訂のポイント		
第 5 回	○道徳教育の目標と道徳科の目標○道徳教育全体計画、年間指導計画、別葉について○4 つの視点と内容項目		
第 6 回	○指導案作成の手順○道徳教育の理論についてのまとめと確認		
第 7 回	○授業モデル視聴○質の高い多様な指導方法		
第 8 回	○いじめ問題、情報モラル、現代的な課題		
第 9 回	○道徳教育と道徳科における評価・評価の意義・評価方法等		
第 10 回	○道徳教育と各教科等との関連、家庭や地域社会との連携の在り方		

第11回	○指導案作成の実際
第12回	○指導案作成の実際
第13回	○模擬授業と相互評価
第14回	○模擬授業と相互評価
第15回	○まとめと確認
第16回	定期試験
授業時間外の学習	事前にテキストや学習指導要領の読み込み、指導案やレポート作成に向け、予習・復習を合わせ1.5時間程度を要する。
履修条件 受講のルール	道徳教育の意義を理解し、これまでの道徳教育の歴史や諸外国の道徳教育を学ぶと共に、児童生徒の道徳性の育成を目指し、道徳科の授業実践に直結した指導力を身に付けるため、教材吟味や指導案作成、模擬授業に重点を置きます。アクティブ・ラーニングへの積極的な参加や教材研究をお願いいたします。授業では、基本的なマナー（私語、脱帽、飲食、退室の際の声掛け、スマホの使用など）を守り、互いに気持ちの良い授業の運営に協力してください。シラバスは授業の進行上途中で修正される可能性がある。中座や欠席は事前に必ず声をかけること。
テキスト	『道徳にチャレンジ』石黒真愁子著 日本文教出版 2019年
参考文献・資料	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』
成績評価の方法	50%は筆記試験、既修内容の確認や指導案作成などをもとに評価します。主に授業実践に関わる教材吟味や指導案作成などを個人または小グループで取り組む。また、50%はレポートや、模擬授業、授業への意欲・態度等も考慮する。 ※出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができない。
オフィスアワー	集中講義のため特になし、期間中いつでも対応します。
成績評価の基準	試験、レポート課題等50%、演習、授業意欲、授業態度等50%で評価する。 秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	【職歴】公立小中学校の教諭、主幹教諭、教頭、校長を経て現在に至る。【社会活動】2008年~2015年、文部科学省「心のノート改善に関する協力者会議」「読み物資料作成委員」「心のノート改訂作業部会協力委員」「『私たちの道徳』の指導資料作成協力委員」「道徳教育に係る教師用指導資料作成委員」【所属学会】日本道徳教育学会 日本道徳教育方法学会 【主要論文】「個と集団の成長を促す心の教育の在り方」(査読付き 日本道徳教育学会)「道徳性を育み、道徳的実践意欲を高める道徳教育の在り方」(査読付き 日本道徳教育学会 神奈川支部)【主要著書】『新学習指導要領の展開』2016 編共著(明治図書)『アクティブ・ラーニングを位置付けた特別の教科道徳の授業プラン』2017 編共著(明治図書)『考え、議論する道徳科授業の新しいアプローチ 10』2017 編共著(明治図書)『中学校2(3)年の道徳授業35時間のすべて』2019 編共著(明治図書)『道徳にチャレンジ』2019 単著(日本文教出版)等 【学位】教育学修士、芸術学修士 道徳教育の指導方法全般、道徳教育の計画、道徳科の基本方針、道徳教材の活用と教材分析、道徳科における多様な指導方法、指導過程の工夫と指導案作成、模擬授業と授業改善、道徳の評価、カリキュラム・マネジメント等特に指導方法について実務経験に基づく授業を行う。
学生へのメッセージ	○授業の進度により、シラバス内容が途中で変更される場合がある。 ○毎回テキスト『道徳にチャレンジ』は持参する。 ○スマホの使用、私語、飲食(水分を除く)、遅刻、いねむり等に留意し、互いに気持ちの良い学びの場をつくる。 ○道徳教育は難しいというイメージがあるが、じっくりと考えることで力がついていく。教育実習の授業実践にむけても実践的な力をつけることを目指す。